

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第147集

五庵遺跡

GOAN

長野県佐久市田口

五庵遺跡発掘調査報告書

2007.3

長野県佐久市

長野県佐久市教育委員会

例 言

- 1 本書は、平成 18 年に調査した長野県佐久市田口に所在する五庵遺跡の調査報告書である。
 遺跡名 五庵遺跡
 所在地 長野県佐久市田口 2955,2957-8
 調査面積 3,600 m²
 開発主体者 長野県佐久市
 開発事業名 「田口児童館建設事業」
 調査期間 平成 18 年 7 月 12 日～平成 19 年 3 月 31 日
- 2 本調査は、佐久市の委託を受けた佐久市教育委員会が実施した。
- 3 調査は、羽毛田卓也を担当者とし、地元の皆様をはじめ多数の方の協力を得て実施した。
- 4 本遺跡に関わるすべての資料は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。
- 5 本書の執筆・編集は、羽毛田卓也が担当した。

凡 例

- 1 遺跡の略称 TGG
- 2 遺構の略称 竪穴遺構 → Ta
 柱穴址 → P
- 3 遺構・遺物の縮尺は各図中にスケールを付したので参照されたい。
- 4 本文・表・図版等の番号(例 12 - 3)は挿図番号(例第 12 図 3 番)と対応する。
- 5 ピット付近の(ー)数値は、確認面から底面までの深度を表す。
- 6 遺構横断面図中の記号「S」は「石」を表す。
- 7 遺構断面図中の「—」上の数値は標高を表す。
- 8 土層説明中の土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・(財)日本色彩研究所色票監修 1987 年度版「新版標準土色帖」の表示に基づいた。
- 9 写点図版中の遺物の縮尺はその都度明記し、明記のないものは任意の縮尺である。
- 10 土層説明中の粒子表記は「堆積物粒径分類」に基づいた。

名称	礫・バミス				砂			泥	
	巨礫	大礫	中礫	細礫	粗砂	中砂	細砂	シルト	粘土
直径 (mm)	256 以上	256～64	64～4	4～2	2～0.5	0.5～ 0.25	0.25～ 62/1000	62/1000 ～4/1000	4/1000 以下

目次

例言・凡例

目次

第I章 発掘調査の経緯	1
1 調査に至る動機	1
2 調査の概要	3
3 調査の体制	3
4 調査日誌	3
第II章 遺跡の位置と環境	4
1 遺跡の自然的環境	4
2 遺跡の歴史的環境	5
第III章 調査の記録	7
1 第1号竪穴遺構	7
2 ビット群	7
3 旧河川および全体概所	8
第IV章 調査のまとめ	8
写真図版	9

第1章 発掘調査の経緯

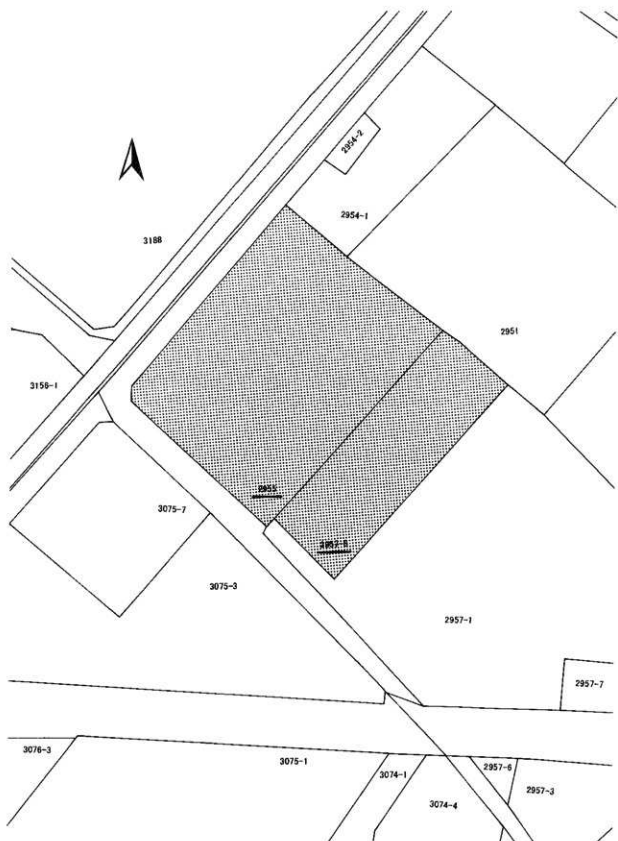
1 調査に至る動機

五塚遺跡は、佐久市田口に所在し、佐久市東部の霊仙峠北西山麓の田口峠付近に源を発し、佐久市中央で北進する千曲川へ合流する雨川によって成立した小扇状地上（標高719m～726m）に展開する平安時代を主体とする集落址である。今回の調査地点は、本遺跡南西部に位置する。

今回、佐久市児童課が行う「田口児童館建設事業」に伴い、佐久市児童課と佐久市教育委員会とで協議の結果、試掘調査を行い、遺構の有無を調査した。試掘調査の結果、平安時代と考えられる遺構が検出されたため、再度協議を行った。協議により、駐車場と小グランド部分は地下保存とし、建物基礎により破壊される部分を、児童課より委託を受けた佐久市教育委員会が主体となって発掘調査を行う運びとなった。



第1図 五塚遺跡位置図 (1:50,000)



第2图 调查区周边地籍图 (网点调查区, 1:500)

2 調査の概要

発掘調査

調査面積	1,256 m ² (対象面積：約3,600 m ²)
調査期間	平成18年7月12日から平成19年3月31日
調査遺構	中世以降の柱穴址 45基 中世の堅穴遺構 1基 古代以前の小河川流路 1条

3 調査の体制

事務局（平成18年度）	佐久市教育委員会 社会教育部 文化財課
教育長	三石昌彦
社会教育部長	柳沢義春
文化財課長	中山悟
文化財調査係長	高柳正人
文化財調査係	林幸彦、須藤隆司、小林稔寿、羽毛田卓也、雷沢一明 神津格、上原学、出澤力、 佐々木宗昭、森泉かよ子
調査主任	堀益子、菊池喜重、武者幸彦
調査員	

4 調査日誌

平成18年6月26日

児童課と保護協議

平成18年7月6日

現地協議

平成18年7月12日～14日

重機による表土剥ぎ開始

発掘器材の搬入

平成18年7月12日から8月22日

測量基準杭の設置

遺構検出作業、遺構の掘り下げ、遺構の実測・写真撮影

調査区の実測・写真撮影

平成 18 年 9 月 22 日

全調査区の調査終了

平成 18 年 7 月 12 日～平成 19 年 3 月 31 日

遺物の洗浄・注記・復元・実測・写真撮影

遺構実測図面の修正・遺構第 2 原図作成

各種図面のトレス、報告書版下作成

報告書編集作業、校正

遺物・図面の整理・取納

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

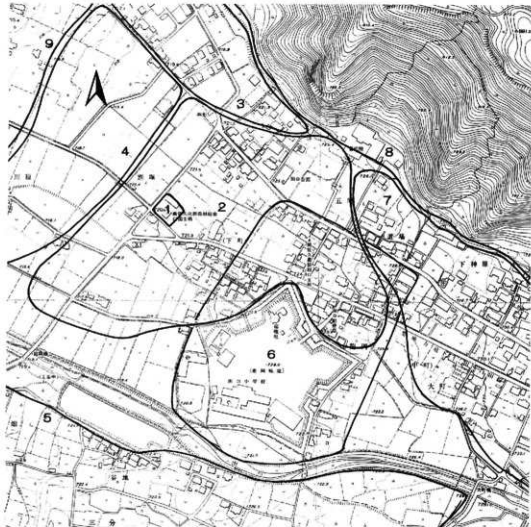
1 遺跡の自然的環境

佐久平は、北方に前掛山 (2524 m)・黒斑山 (2404 m)・高峰山 (2106 m)・湯ノ丸山 (2101 m)・火山活動中の浅間山 (2568 m) を主とする三国山脈の南端峰群、東から南方に関東山地から連なる山々である平尾山 (1155 m)・秦泉山 (1136 m)・八風山 (1315 m)・寄石山 (1334 m)・物見山 (1375 m)・鳳の峰 (1292 m)・熊倉峰 (1234 m)・荒船山 (1422 m)・兜岩山 (1368 m)・霊仙峰 (1268 m) などからなる関東山地北西部の佐久山地北方峰群、西から南方に蓼科山 (2530 m)・双子山 (2223 m)・横岳 (2480 m)・茶臼山 (2384 m) を主とする北八ヶ岳連峰と、ほぼ四方を山々に囲まれた盆地で、長野県の中央東端に位置し、群馬県と接している。佐久平全域の平坦部の標高は約 600m から 1000m を測り、佐久市はこの佐久平のほぼ中央に位置し、平坦部の標高は 620m から 770m を測る。佐久市は北側で北佐久郡軽井沢町・御代田町、小諸市、東御市と、西側で北佐久郡立科町と、南側で茅野市、南佐久郡佐久穂町と、東側で群馬県甘楽郡下仁田町・南牧村と接している。平成 14 年度の年平均気温は 10.9℃、年間降水量は 994 mm、年間日照時間は 2069.9 時間、最高最低気温差は 46.4℃で、典型的な中央高地型気候となっている。

佐久市は中央部を佐久地方南端の甲武信ヶ岳に源を発する千曲川が北進し、浅間山麓に源を発する湯川・濁り川、佐久山地に源を発する霞川・香坂川・志賀川・滑津川・田子川・瀬原川・八重久保川・雨川・谷川、北八ヶ岳山麓に源を発する石突川・片貝川・大沢川・中沢川・小宮山川・倉沢川・宮川・滝川・大曲川・布施川・須釜川・八丁地川・鹿曲川・細小路川などの小河川がそれに向かって集まり、大小の扇状地や河岸段丘・侵食谷を形成している。

今回調査した五鹿遺跡は、南側を西進する千曲川支流の雨川に向かって緩く傾斜している。調査地点は、雨川下流の小礫状地上に展開しているが、その後雨川によって河川段丘が形成され、その小段丘中段の緩傾斜地に位置する。調査区の地山となる基盤層は雨川による河川堆積土であるが、調査区中央を流れた小河川による堆積土もあるものと考えられる。

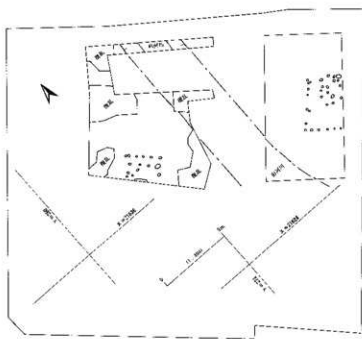
2 遺跡の歴史的環境



第3図 五庵遺跡周辺遺跡分布図 (1:5,000)

今回調査した五庵遺跡の所在する田口地区には、縄文時代から近世にかけての遺跡や古墳群が、千曲川やその支流である雨川によって形成された扇状地および河岸段丘状の微高地に展開している。第3図は、今回調査した五庵遺跡周辺の遺跡分布状況である。1は今回調査地点、2は縄文・古墳・奈良・平安時代の五庵遺跡、3は縄文・弥生・古墳・奈良・平安時代の明法寺遺跡、4は弥生・古墳・奈良・平安時代の新塚遺跡、5は縄文・古墳・奈良・平安時代の三分遺跡、6は国史跡で近世末期の龍岡城跡（五稜郭）、7は縄文・弥生・古墳・奈良・平安時代の神原道場遺跡、8は中世の田口城跡、9は幸神古墳群・外九間古墳群・中原古墳群を含む、弥生・古墳・平安時代の原遺跡である。また本遺跡東には新海三社神社、北には中世末期の武将依田信蕃供養のため建立された蕃松院が存在する。今回調査した五庵遺跡で検出した遺構は中世と考えられるため、中世の城である田口城について説明を加える。田口城は、関東山地から西に伸びる山塊の西端に築かれた城で、主郭を中心として二郭・三郭・出郭・掘切・支城を持つ残存状況の良い山城である。主郭より東側に2本の掘切を隔てて田口古城が存在する。築城当初は、田口古城が本城で、現在の田口城は出郭であったものと

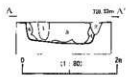
推定される。上郭からは、佐久平のほぼ全域を望むことができる。近年主郭の東直下までの林道造成により、三郭斜面の一部、馬場平坦地、帯郭・段郭・土塁・掘切の一部が破壊されてしまっている。また各郭・帯郭上の樹木が乱伐・皆伐を受け、郭の土砂の流失を起こしている。Ⅲ口城は溶結凝灰岩の切り立った岩体の上部を利用しており、岩体上部の火山灰土と造作による土盛によって構築されている。林道が水の道となり、裸同然となった山頂から土砂とともに水が流れ下っている。特に二郭南西部と馬場北側の土砂流失が著しい。また切り立った岩体の風化が進み、亀裂に水とともに土砂が流れ込み、亀裂の広がりや加速させている。南側崖では、近年崩落した岩体の一部が散乱しており、崩落が始まっている。また主郭直下の帯郭・二郭の南端には岩体の亀裂による陥没が致筒所見られ、雨水が流れ込み、岩体崩落の危険がある。Ⅲ口城の築城年代は不明で、記録に登場するのは、1548年8月18日で、小山出信有を大将とする武田軍により落城したのが初見である。その時の城主はⅢ口左近将監良能と記されている。武田軍との激戦により内山城が落城したのは1546年5月、笠原城が落城したのは1547年で、Ⅲ口城はそれに続いて落城している。落城後武田晴信は、攻め滅ぼした大井氏の重臣であった阿江本能登（依田能登）をここに配置したとされている。その阿江木氏は、1583年12月～翌1月にかけて依田信蕃に攻められて開来に逃げる。Ⅲ口城の最初の築造はⅢ口氏によるものと考えられるが、Ⅲ口氏の出自は明らかではない。1485年に出口頼主としてⅢ口山城守良慶が登場する。当時北佐久の大半を領有していた大井氏と密接な関係があることが知られており、大井氏と姻戚関係にあったのかもしれない。五鹿遺跡は、この出口城を北側に見上げる場所に展開している。Ⅲ口城の稼働年代が15世紀末から16世紀末までの100年間とすれば、今回調査した遺構の推定年代と大きく隔たりはないものと考えられる。



第4図 Ⅲ口城遺跡調査全体図 (1:400)

第三章 調査の記録

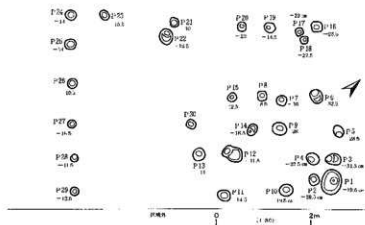
1 第1号竪穴遺構 (Ta1)



第5図 Ta1号上層断面図

第1号竪穴遺構は調査区の西端で検出された。平面形態は長方形と考えられるが、大半が調査区域外であり断定はできない。周囲に軸を同じくするピット群が巡っており、ピット群を建物址とすると、その付属施設の可能性がある。検出された東西長は158cmで、壁の高さは47cm内外を測る。床面は著しく硬化しており、一部に黒色炭化層が観察された。1層は4層に分割された。第1層は水道管敷設に埋められた擾乱土、第2層は樹木抜根による擾乱土、第3層は小礫と炭化材微小片を微量含むシルトと粘土の暗褐色土(10YR3/3)、第4層は小礫を微量に粘土ブロックを多量含む黒褐色シルト(10YR2/2)である。遺物は中世末期と考えられる瀬戸灰釉の破片が出土した。

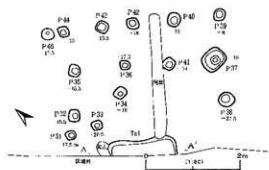
2 ピット群 (P1～P45)



第6図 東側ピット群実測図

ピット群は、調査区東側と西側2箇所で集中して検出された。都合東側を第1号建物址、西側を第2号建物址とする。第1号建物址(P1～P30)は、調査区東端で検出され、東側は調査区域外に延びている。ピット内の覆土は炭化材微小片を微量含むシルト主体の黒～暗褐色土(10YR3/3～2/3)である。いずれのピットも底部が硬化していた。第2号建物址(P31～P45)は、調査区西端で検出され、南側は調査区域外へ延びている。ピット内の覆土は砂礫と粘質

土を主体とする黒褐色土(10YR2/3)である。いずれのピットも底部がかなり硬化していた。またP33は内部が空洞化していた。遺物は、P1から土鍋小片と輝石安山岩の加工痕のある剥片、P23から黒色緻密安山岩の加工痕のある剥片、P34から土鍋小片、P42から輝石安山岩の加工痕のある母岩が出土した。

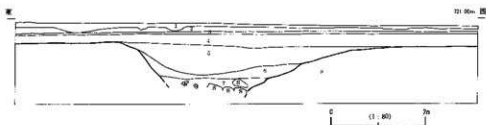


第7図 Ta1号・西側ピット群実測図

3 旧河川および全体層序

旧河川は、調査区中央を北から南に向かって検出された。流方向は北から南に向かっている。覆土は3層(第5～7層)を確認した。第5層は大小礫を少量含むしまりのない黒色シルト(10YR1.7/1)で、第6層は小礫と粘質土を多量含む黒褐色シルト(10YR2/2)、第7層は小礫をきわめて多量に含む暗褐色砂質土である。いずれの層からも遺物は出土しなかった。

層序は旧河川の断面図を参照されたい。第1層は表土、第2層は旧水田耕作土(暗褐色土)、第3層は旧水田耕作土床土(褐色土)、第4層は水田化する際の客土・整地土(暗褐色・黒褐色土)、第8層は小礫を含む暗褐色粘質土で河川の影響下で成立した二次堆積土である。



第8図 旧河川跡土層断面図(全体層序を含む)

第IV章 調査のまとめ

佐久市児童課が行う「出口児童館建築事業」に伴い、保護協議の結果、駐車場・広場については地下保存とし、建物部分を発掘調査した。発掘調査の結果、中世と考えられる竪穴遺構1棟とピット45基(建物址2棟分)、時代不明の河川跡を検出した。建物址は重複や建替えが見られないため、早期の集落の一部と考えられ、周囲に散発的に広がっているものと推察される。また調査区内の地表面に置かれていた1辺44cm～78cmの切石32個(溶結凝灰岩・粗粒凝灰岩、写真参照)は、聞き取り調査の結果、昭和40年代の園場整備の際に、本調査地北方に存在する龍岡城枳形付近で出土した龍岡城関連の石瓦の切石と判明し、文化財課へ遺物として搬入した。切石は列になって出土したということで、龍岡城の範囲を知る上で枳形の形状を知る上で大変貴重なものである。「五庵」という地名は「御庵」が転化したものと考えられ、付近に御堂があったと推察される。本調査地の北側に隣接する場所には、五輪塔(写真参照)と無縫塔形墓2基、舟形石塔墓5基、石祠が存在しており、その可能性を高めている。無縫塔の形態から江戸時代後期には御堂があったのではないかと考えられる。また石祠は「田神」だそうである。それらは前述の園場整備の際にそこへまとめられたものと伝わっているが、そう遠くはない場所から移動したものと考えられる。



Ta 1号堅穴遺構 (北より)



西側ピット群・Ta 1号 (北より)



西側ピット群・Ta 1号 (西より)



東側ピット群 (西より)



東側ピット群 (南より)



西側地区全景 (北より)



東側地区全景 (南より)



調査地点より東方を臨む



調査地点より田口城を望む



調査地掘削状況（西方より、田口城・田口峠を窺む）



調査地区埋め戻し状況



調査地区埋め戻し完了状況



調査地区北側石塔群・五輪塔（後は田口城）



調査地区北側石塔群（東より）



調査地区北側五輪塔



龍岡城柵形付近出土石垣使用切石

報告書抄録

書名	五庵遺跡
ふりがな	ごあんいせき
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財報告書
シリーズ番号	第147集
編著者名	羽毛出卓也
編集・発行機関	佐久市教育委員会
発行年月日	2007.3.31
郵便番号	385-0006
電話番号	0267-68-7321
住所	長野県佐久市志賀5953
遺跡名	五庵遺跡
遺跡所在地	長野県佐久市田口2955、2957-8
遺跡番号	旧白田町-80
経度	東経138°30'00"
緯度	北緯36°11'54"
調査期間	2006.7.12~2007.3.31
調査面積	3,600㎡
調査原因	児童館建設
種別	集落址
主な時代	中世
遺跡概要	遺構 竪穴遺構1軒、柱穴址45基、河川跡1条 遺物 中世~近世の陶磁器、縄文時代の石器
特記事項	

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第147集

五庵遺跡

2007年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市中込3056

文化財課

〒385-0006 長野県佐久市志賀5953

電話 0267-68-7321

印刷所

白田活版株式会社